

# 令和元年度 伊勢地域公共交通会議 第2回 議事要旨

## ■開催概要

日時：令和元年6月21日（金） 18時30分～20時40分

場所：伊勢市役所 東館5階 5-3・5-4会議室

出席者：全17名

学識経験者

2名（名古屋大学大学院環境学研究科教授  
・近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）

市民代表 4名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通株式会社バス営業部部長（乗合））

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合 執行委員長）

鉄道事業者

2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部  
・近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

1名（首席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署

1名（交通官）

三重県 1名（地域連携部交通政策課長）

伊勢市 3名（市長・健康福祉部部長・教育委員会事務部長・都市整備部部長）

事務局 4名（伊勢市都市整備部交通政策課）

## ■議事内容

### ■平成30年度 事業報告について

### ■平成30年度 事業収支決算書（案）について

平成30年度事業報告及び平成30年度事業収支決算は相互に関連するため一括審議とし、事務局より資料を用いて説明。

おかげバスデマンドの利用者が、昨年度から急に増加しているが、どのような要因か把握しているか。（市民代表）

⇒事務局でも明確な理由は把握できていないが、例えば小木・田尻ルートでは、市内循環バスも接続するララパークに出るような利用が増えたのではないかと考えている。（事務局）

平成30年度事業報告及び平成30年度事業収支決算について、差引残額等の誤記を修正することで、承認をいただいた。

## ■ 生活交通確保維持改善計画の令和2年度認定申請について

事務局より、生活交通確保維持改善計画の令和2年度認定申請について、資料を用いて説明。

計画書の「17. 協議会の開催状況と主な議論」については、直近の3ヵ年程度の整理が良い。また、どのような改善を実施してきたのかなどをアピールできると良い。

「2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」のうち、「(1) 事業の目標」について、前年なのか前年度なのか、また、決算年度なのか補助年度なのかをわかるように整理すること。通常は補助年度での整理である。

この目標については、特に沼木バスなど利用者が減少している路線などについて、地域の住民の方々と共有できると良い（学識経験者）

⇒現在は10月から翌年の9月までの補助年度で整理をしていることから、わかりやすく修正する。（事務局）

⇒目標値については、直近3ヵ年の伸び率を基に、増加傾向の場合は直線トレンドで目標値を設定し、減少傾向の場合は直近の年度の利用者数を維持することで設定している。鹿海・朝熊ルートは約-6%、明野ルートは約+8%、二見ルートは+2.9%、東大淀・日赤ルートは+3.9%となっている。現在開催中の意見交換会などの場を活用し、この目標値を地域と共有したい。（事務局）

⇒今の説明内容を反映した記載に修正すること。（市長）

現在の地域公共交通網形成計画に、この目標値について記載されているのか。記載されていない場合は記載することが望まれる。（学識経験者）

⇒現在、地域公共交通網形成計画の見直しの検討を進めていることから、その中で記載する。（事務局）

生活交通確保維持改善計画の令和2年度認定申請について、修正対応を事務局一任とすることで承認をいただいた。

## ■ 市内循環バス社会実験運行について

事務局より、市内循環バス社会実験運行について、資料を用いて説明。

市内循環バスは、乗り継ぎ割り引きも含め、令和2年3月末まで社会実験運行として延長するということが良いか。（鉄道事業者）

⇒そのように考えており、乗り継ぎ割り引きについても引き続き協力をお願いしたい。（事務局）

9月以降、名称を「市内環状バス」に変えるということであるが、あえて変える必要があるのか。既に市民に「市内循環バス」という名称が浸透しているのであれば、混乱を招くのではないか。（市民代表）

⇒この社会実験運行中の際、PR活動を継続して実施してきたが、まだまだ浸透していない状況が見受けられた。また、「循環」という名称が、行ったり来たりなどするイメージがあり語弊を招く可

能性があることから、実態に合わせてイメージしやすいように「環状」にしてはどうかと考えている。（事務局）

チラシの情報量が非常に多くなっており、時刻表についても上から見たり下から見たりと分かりにくい。第2期運行となるので、情報量を減らし、時刻表にスペースを割いて大きくするなど見やすくしてはどうか。（市民代表）

⇒時刻表については、一般的に上が起点、下が終点とすることが多い。スペースの問題もあって、このように矢印で運行方向を示す工夫をしているのではないか。名称については、実態に合ってくるので分かりやすいと思う。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒時刻表は、右回りと左回りとを逆に表示することで時系列に便が並ぶのではないか。また、起点から終点までを1つの矢印で方向を示すのではなく、各時刻の横に小さな矢印を表記するほうが分かりやすいかもしれない。利用者にとって便名は不要なので、右回りや左回りが分かればよいと思う。乗り方教室などを通じて、時刻表の見方を学ぶことも大事である。（学識経験者）

⇒チラシを、市内循環バスについてよく知っている方を対象にしたパターンと、あまり知らない方を対象にしたパターンの2種類作成するのをもひとつである。（学識経験者）

⇒チラシに「第2弾」と大きく表記してはどうか。また、第1期から変わった点をもっとアピールしても良いと思う。（市民代表）

第2期運行で新たに増えるバス停についての周知も大事であるが、廃止となってしまうバス停についても、しっかりと周知する必要がある。（学識経験者）

高齢者の事故が増えており、池袋の事故以降、特にゴールデンウィーク以降の運転免許証の返納者が増加している。このような取組みで公共交通が確保されるのは重要なことである。（伊勢警察署）

⇒運転免許証返納者割り引きは1日当たり約450人の方が利用されている。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒運転免許返納者の不安を和らげるために、警察署には運転免許証返納者割り引きのチラシを置いている。県においても、各町の公共交通関係のチラシなどを集め、運転免許証返納の際に提供できるような取組みの実施を考えている。（三重県）

小俣地区では、市内循環バスはあまり関係ないと思われる。例えば東大淀・日赤ルートを利用して伊勢赤十字病院までいけば、そこから市内循環バスを利用することもできるので、もっとアピールしてはどうか。また、老人会の場などでアピールするのが効果的ではないか。（市民代表）

環状ルートでの運行は、全国でもほとんど成功例がないというぐらい難しい運行である。そのような中、思ったよりも上手くいっていると感じている。

そもそも本格導入をするのかを判断するには、5か月という期間で短すぎであり、本来であれば3年ぐらい運行していかなければならない。ただ、大体半年ぐらい運行していくと、その後の流れも見えてくるが、現在は良い流れになっていると感じている。

市内循環の目標値はかなり高すぎるが、40%の方が乗り継ぎをしているという数値は驚異的である。設定ルート自体がもともとあったニーズに合致したものと考えられる。

今後は減少する可能性も考えられるが、この時期に減少しなければとても良い流れになるので、

色々とPR活動を展開していくことが大事となる。

注意点としては、地域間幹線系統の利用が思わしくない状況にあるため、多気町や鳥羽市、志摩市、南伊勢町など、地域間幹線系統で結ばれている周辺自治体でもPRして、地域間幹線系統とも一体的に利用者増が図れるととても良い。(学識経験者)

この市内循環バスにはとても期待している。小学生を対象にした乗り方教室をやっているようであるが、高齢者を対象とした教室も開催してほしい。(市民代表)

市内循環バスについて、第2期運行も実施することで承認をいただいた。

## ■ 松阪伊勢線・玉城線の再編について

一般乗合旅客自動車運送事業者(三重交通)より、松阪伊勢線・玉城線の再編について、資料を用いて説明。

ダイヤについて、朝と夕方は現在の玉城線を意識しているように見えるが、利用状況を踏まえての対応か。松阪伊勢線は、通勤・通学に不利になるのではないか。(学識経験者)

⇒伊勢市や玉城町とも協議し、玉城線の通勤・通学利用が多いことなども踏まえ、実態に即したダイヤ編成としている。(一般乗合旅客自動車運送事業者)

松阪伊勢線の利用の8割が伊勢市内区間であるとのことであるが、玉城町方面に分岐してからの利用が多いのか。(学識経験者)

⇒高畑から掛橋の区間の方の利用が多い。(一般乗合旅客自動車運送事業者)

松阪伊勢線・玉城線の再編について、原案どおり承認をいただいた。

## ■ 伊勢地域公共交通会議委員の追加について

事務局より、伊勢地域公共交通会議委員の追加について、資料を用いて説明。

この地域にはタクシー協議会はないのか。もしあるのであれば、そのタクシー協議会を機能させることも大事である。(学識経験者)

⇒あるはずである。(中部運輸局三重運輸支局)

伊勢地域公共交通会議委員の追加について、原案どおり承認をいただいた。

## ■ 伊勢市地域公共交通網形成計画における指標の推移について

---

事務局より、伊勢市地域公共交通網形成計画における指標の推移について、資料を用いて報告。

特に意見なし

## ■ 伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への連節バス導入の進捗状況について

---

一般乗合旅客自動車運送事業者（三重交通）より、伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への連節バス導入の進捗状況について、資料を用いて報告。

徴古館経由のうち、どの程度の便が連節バスになるのか。（市民代表）

⇒今も臨時便を運行させているが、現在の1時間に4便の間に運行したいと考えている。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

## ■ その他

---

横断歩道について、手押し車などを使用している足腰の弱い高齢者が、歩行者信号青時間が短いために渡りきれないという話を聞く。（市民代表）

⇒歩行者信号青時間の延長押しボタンというものもある。信号が青に変わってすぐであれば渡り切れなくても、途中からでは渡り切れない。特定の信号でそのようなことが多く発生しているのであれば、自治会などを通して言っていただければと思う。（伊勢警察署）

学識経験者より、トークセッション「巨大災害で孤立した街を救うため、公共交通を至急確保せよ！」の開催について案内。

以上